



住北通信

第2号 発行日 R2.6.3
発行者 校長 松下 佳司
大東市立住道北小学校
TEL 872-7788 FAX 872-7789

「夢をもつ住北っ子」の育成をめざして

本校がもつよき伝統や教育的風土のなかで、「TEAM SUMIKITA」を合言葉に、今年度も全職員の総力を結集し、積極的協力体制のもと地域や学校の実態に即した実践を展開してまいります。

学校教育目標「心豊かに生きぬく たくましい子」のもと、「自ら学ぶ力」(知)・「豊かな心」(徳)・「健全なる身体」(体)のバランスを図り、「めざす子ども像」及び「重点課題」を見直しました。

学校教育目標



令和2年度 重点課題

※縦線、下線の部分が、修正した文言です。

- ◇ 自ら問いを持ち、根拠をもって自分の考えを説明できる子の育成
- ◇ 生活規律を意識して生活し、違いを豊かに認め合う子の育成
- ◇ 友だちのつまずきを大切に学び合い、課題の達成を喜び合える子の育成

段階的な教育活動の再開

大阪府教育委員会が例示した「1日おきの分散登校での授業（2日に1度の登校）」を採用し、5月14日（木）から行ってきた分散登校の方法をそのまま取り入れ、6月1日（月）から4時間の短縮授業で教育活動を再開しました。

慣れてきた朝の登校リズムを維持し、その安全確保を最優先に隔日での分散登校を選択しましたが、午前・午後に振り分け、毎日分散登校する方法を選択した学校との授業時数の差を心配される保護者も当然いらっしゃると思います。限られた時間の中での授業時数確保の工夫は、最重要課題として受け止めており、下記の対応策のもと、教育課程を編制することとしております。

一方、4月、5月の空白を埋めようと懸命になるあまり、子どもたちにできることには、限界があるということを決して忘れてはいけません。臨時休校中、子どもたちは長く家に居て、自分なりのストレス解消法を見つけながら頑張ってきたことを念頭に置き、肯定的に子どもたちと向き合い、小さな頑張りを大きく認めていきたいと考えております。

当面、どの学校でも、どの子どもにも起こる可能性がある事象として、

○朝なかなか起きられない、何かしら不安がある等で、登校をしづむ傾向がある。

○腹痛・頭痛や不眠、食欲不振、退行、がんばりすぎる等の症状が、心や体、行動に現れる。

○教室や体育館等、大勢の人がいる場所への出入りに躊躇する。

○対人関係がうまくいかないこと（休校中のSNSによるトラブル等）に悩んでいる。

○感染者やその疑いのある人に対するからかい・中傷などの発言やいじめを不安に感じている。などが想定されますので、気になることがございましたら、学校までご連絡ください。

授業時数の確保に向けて

学習指導要領施行規則に明記されている**6年生の年間総授業時数**は、**1015時間**です。それを標準とし、学校再開後、例年通りの授業日数・時数で教育課程を編制しますと**130時間**程度不足となりますが、以下の工夫により、今のところ、その不足時数は補えるものと見込んでいます。

授業日数を増やす

◇長期休業日の短縮

・夏季休業期間（8月1日～8月19日：17日間の短縮）→11日間の増加 **+66時間**

・冬季休業期間（12月26日～1月6日：2日間の短縮）→2日間の増加 **+12時間**

◇土曜授業の実施…7月18日（土）・9月5日（土）・1月16日（土）〈予定〉

→3日間（4時間授業）の増加 **+12時間**

授業時数を増やす → 年間30週として算出しています。

◇週当たりのコマ数の増加 → 水曜日の6時間授業：4・5・6年生 **+26時間**

◇帯時間（※モジュール学習）の活用

→ 朝（8時30分～8時45分）**+30時間** → 昼（13時45分～14時）**+30時間**

◇授業時間の変更（1コマ40分）や給食日の増加 **+14時間**

※モジュール学習とは、通常45分の授業を15分ごとの3つに分ける短時間学習のことで、年間30週において週3回で1回分（45分）の授業時数としてカウントできます。朝・昼の帯時間として、各々30時間を確保します。

登校時からの組織的な感染症対策に備え、午前8時30分からの授業へと速やかに移行するために職員の勤務時間を午前8時から午後4時30分に変更しました。また、今年度の放課後校庭開放の中止等、取組みの精選や会議等の効率化も図りながら、状況次第では、放課後を活用した**60分授業**（6時間目の15分延長）も想定し、授業時数の確保に努めてまいります。